

J-MICC Study静岡地区の進捗状況

日本多施設共同コホート研究 (J-MICC Study) は、生活習慣や遺伝的体質とがんなどの生活習慣病との関係を調べるため、2005年にスタートしました。その後、多くの皆様にご協力をいただき、日本で最大規模の分子疫学コホート研究に成長しました。J-MICC連合を含めた全国の研究協力者数は、2013年12月時点で9万8千人を超え、目標の10万人まであと少しとなりました。

このうち静岡地区では、2006年から2007年にかけて聖隷予防検診センターの人間ドックを受診された方々に、研究参加をお願いしました。現在、5,014人の方々に研究にご参加いただいています。2008年以降、研究参加者の皆様には、研究の柱となる生活習慣病（がん、心臓病、脳卒中）にかかれたかどうかを調べるための「健康状態のおたずね」への回答を、年に1回お願いしております。

さらに、研究参加時（第一次調査）からの皆様の生活習慣や身体状態の変化を調べる目的で、2012年1月から12月までにドックを受診された静岡地区参加者を対象に第二次調査を実施し、2,300名を超える方々に調査のご協力をいただきました。上記期間に聖隷予防検診センターの人間ドックを受診されなかった方々には、郵送でお声がけさせていただきました。第一次調査に2006年に参加された方には2013年1月末に、2007年に参加された方には2013年5月に、お願いの手紙とともに調査票をお送りし、ご回答いただきました。おかげさまで、全体の約8割の方々に第二次調査のご協力を得ることができました。皆様の温かいご支援に、関係者一同深く感謝しております。

今後は、研究成果の発信にいつそう努力する所存です。ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

研究レポート「飲みこみにくさと食事の関係」

中高年者において、飲みこみにくさとカロテンや食物繊維の摂取量に関連が認められた

嚥下機能の低下は食生活に影響を与えることが予想されます。静岡地区のベースライン調査データを用いて、中高年者における飲みこみにくさと栄養素摂取との関連を検討しました。

飲みこみにくさと歯数は、調査票で情報を収集しました。前者は「いつも・よくある」「時々ある」「めったにない」「まったくない」の4カテゴリに分類しました。栄養素摂取量は食物摂取頻度調査票を用いて推定しました。性や年齢を調整して、統計学的な分析を行いました。

全体の19%が何らかの飲みこみにくさがあったと回答しましたが、男女間に割合の差は認められま

せんでした【図1】。「いつも・よくある」あるいは「時々」楽に飲みこめないことがあると回答した割合は、それぞれ男性で0.5%、3.0%、女性で0.3%、3.8%でした。飲みこみにくさを感じていない者は、カロテンや食物繊維をより多くとっていました。

カロテンや食物繊維に違いが認められた理由として、飲みこみにくさを感じている者は野菜・果物類をとらない傾向があることが考えられました。現在歯数を調整しても同じ結果であったことから、嚥下機能は独立して栄養摂取に影響を与えていると推察されました。第二次調査結果を加えて分析を進める予定です。

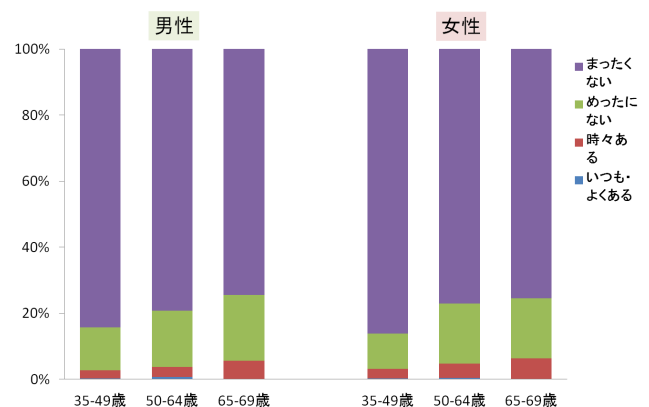


図1. 日常生活における飲みこみにくさ：性・年齢別の回答割合

J-MICC Study各地区の進捗状況（参加者数は2014年1月時点）

こちらでは、現在までのJ-MICC Study各地区の進捗状況をご報告します。

研究機関名（参加者数）	進捗状況
千葉県がんセンター（8,050名）	印西市、我孫子市、柏市の住民を対象に、ベースライン調査を実施。現在、第二次調査および追跡調査実施中。
静岡県立大学（5,904名）	静岡県内の人間ドック受診者および企業健診受診者を対象に、JA静岡厚生連の健康管理センター等でベースライン調査を実施。追跡調査実施中。
愛知県がんセンター（9,163名）	愛知県がんセンター受診者を対象に、ベースライン調査実施。現在、第二次調査および追跡調査実施中。
名古屋市立大学（7,584名）	岡崎市医師会公衆衛生センターの人間ドック受診者を対象に、ベースライン調査実施。現在、第二次調査および追跡調査実施中。
名古屋大学・静岡地区（5,014名）	聖隷予防検診センターの人間ドック受診者を対象に、ベースライン調査と第二次調査を実施。現在、追跡調査実施中。
名古屋大学・大幸地区（5,168名）	名古屋市の住民を対象にベースライン調査を実施。現在、第二次調査および追跡調査実施中。
滋賀医科大学（4,232名）	高島市の住民を対象に、ベースライン調査、第二次調査、追跡調査実施中。
京都府立医科大学（6,383名）	京都市内の人間ドック受診者および地域住民、京都府内の企業健診受診者を対象に、ベースライン調査を実施。現在、第二次調査および追跡調査実施中。
徳島大学（2,453名）	徳島県総合健診センターの人間ドック受診者および徳島県内の企業健診受診者を対象に、ベースライン調査を実施。第二次調査、追跡調査実施中。
佐賀大学（12,068名）	佐賀市の住民を対象に、ベースライン調査と第二次調査を実施。現在、追跡調査実施中。
鹿児島大学（7,856名）	5島（奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島）と本土3市で地域住民を対象にベースライン調査を実施。現在、第二次調査、追跡調査を実施中。

事務局からのお知らせ



J-MICC Study 静岡地区の調査にかかわる主要スタッフです。
どうぞよろしくお願いたします。

研究に関する問い合わせ先：

- ◆名古屋大学大学院医学系研究科 予防医学
〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65
TEL 052-744-2132（平日9:30～16:30）
FAX 052-744-2971
- ◆聖隷予防検診センター 健診看護課 担当：藤城
〒433-8558 浜松市北区三方原町3453-1
TEL 053-439-1115（平日9:00～16:30）

これまでに、静岡地区の皆様より得られましたデータから、学术论文34編、学会発表72題を発表させていただいております（2014年1月時点）。本研究にご参加いただいている皆様に感謝いたしますとともに、今後も引き続きのご協力をよろしくお願い申し上げます。